

お金の仕組みの摩訶不思議 第1回

世界情勢を理解するには
「お金の仕組み」を知らなければならない



Ellen Brown 米国ロサンゼルス出身の作家、司法弁護士、社会活動家。公共銀行制度研究所の創始者であり会長 (<http://www.publicbankinginstitute.org/>)。『Web of Debt』(『負債の網』那須里山舎刊)は米国でベストセラーとなり、『Public Bank Solution』(本邦未訳)では、公共銀行の必要性を説いている。最新刊は『Banking on the People』(本邦未訳)で、2019年6月1日に米国で出版された。ブログはEllenBrown.comで読むことができる。民主的な経済を研究する『The Democracy Collaborative』のフェローでもある。

ベストセラーとなった原著を掲げるエレン・ブラウン氏

現代のお金の世界は複雑怪奇で理解するのが大変だ。そこで米国でベストセラーとなった『負債の網』(那須里山舎刊)の著者エレン・ブラウン氏に、世界のお金の仕組みについて解説してもらうことにした。今回は彼女が住むロサンゼルスハリウッドに向いて、世界情勢を理解するために必要な、お金の仕組みの基本について話を聞いてきた。

お金の九五%は民間銀行が創る

——現代のお金の仕組みは複雑怪奇です。経済学者によって、解釈も大きく異なります。エレンさんの近著『負債の網』は、さまざまな見解の中でも異彩を放っていると思います。そこで現代のお金の仕組みを理解するにあたって、大事なポイントをいくつか教えてください。

ブラウン氏 まず、お金が誰によって、どのように創られているかを知ることが大事です。世界中のほとんどの国において、お金の九五%以上が、民間銀行によって創られています。中央銀行もお金を創っていますが、全体の5%程度です。

——銀行はどのようにお金を創るのでしょう？

ブラウン氏 私たちが銀行からお金を借りると、銀行は通帳に金額を打ち込んでくれます。これでお金が生まれます。これが世間で流通するのですが、そのほとんどは、コンピュータ上で、数字として移動するだけです。例えば商品を購入して銀行振込をしたら、あなたの口座から相手の口座に数字が動くだけです。つまり銀行はたくさんの現金を持つているわけではありませんし、預かった預金を元手に貸し出しをしているのでもありません。持っている現金は、貸し出しているお金の8%以下です。

——銀行はお金（現金）を持っていないのに、お金を貸せるわけですね？

ブラウン氏 その通りです。銀行は、マジックのように無からお金を生み出しています。そして、この無から創ったお金に利子を付けて、利益をあげています。

——まるで詐欺みたいですね。

ブラウン氏 よく詐欺だと言われます。歴史的には詐欺からはじまっています。銀行はこのようなマジックを行ってよいと、国家によって許可されているわけです。お金を創るのはもともと国家

の仕事ですが、現代の多くの国では民間銀行に任されています。借りたお金には利子が付きますが、利子の分のお金を銀行は創りません。そこで現在、流通しているお金の中から利子を払うことになりました。つまり世の中では常にお金が不足しており、競争社会が生まれます。

——利子が諸悪の根源ですか？

ブラウン氏 そうは言いません。利子が生む利益を民間銀行が持つていつてしまふのが問題です。政府が融資して利子を受け取るならば健全です。現代の商品の価格のうち、半分以上は利子の支払いに充てられています。利子を払うことがなければ、製品価格を半分以下にすることができます。

金細工師の預かり証が通貨として流通

——銀行がマジックのように、無からお金を創り出す仕組みは、いつ頃始まったのでしょうか？

ブラウン氏 ヨーロッパ中世の金細工師たちが発見した仕組みです。金細工師は金貨を鑄造し、宝飾品を作っていました。大金持ちから金を預かるようになった。大金持ちにとつて、当時、通貨に使えた金を持ち運ぶのは

不便でしたし、保管場所にも困りました。そこで安全な保管場所として、金細工師に預けたのです。金細工師は預かり証を発行しましたが、これがやがて通貨として流通することになります。

——それはただの紙ですね。

ブラウン氏 そうです。やがて金細工師たちは、大金持ちの商人や地主が、金を引き取りに来ないことに気付きました。統計をとってみると預かった金の10%保管しておけば十分です。そこで金細工師たちは残りの90%の金を貸しはじめたのです。金細工師たちは、大金持ちたちが返却を求めてくる時に備えて、預かった金の10%を保管しておけばよかったです。これが部分準備制度（フラクショナル・リザーブ制度）の始まりです。

——現代でもこの制度は使われていますね。

ブラウン氏 そうです。金細工師たちは、金細工をやめて、お金を貸す仕事に専念するようになりました。最初は金を貸したのですが、やがて利子を付けた証書を渡すことになって、大儲けしたのです。

——そういう人たちが銀行家になったのですね。

ブラウン氏 そうです。彼らは富豪と

なり、当時の貴族や国王に貸し付けをするようになりました。最終的にはイングランド銀行のように国家の代わりに、通貨を発行するまでになっています。

金融機関の特権を脅かすと最後は戦争を仕掛けられる

——『負債の網』によりまずと、イギリス国王が民間銀行であったイングリッド銀行に多額の借金をして、その借金返済のために植民地であったアメリカに多大な税金をかけ、それがアメリカ独立戦争の引き金になったそうですね。

ブラウン氏 戦争になったのも一つの理由は、当時のイギリスの植民地ベンシルベニア州が、経済的に急成長していたことがあります。ペンジャミン・フランクリンなどが推奨したお金の仕組みが大成功したのです。それは植民地政府が独自に紙幣を発行するという方法でした。植民地は金銀のような富を持っていませんから、植民地政府の信用だけで、紙幣を発行して人々に融資したのです。これが大成功したので、英国は植民地政府に紙幣の発行を廃止するように求めたのです。

——なにがいけないのでしょうか？



ブラウン氏 イングリッド銀行の狙いは国家にお金を貸して儲けることです。植民地政府が、銀行からお金を借りないで、人々に融資して、利息も植民地政府の懐に入つては、民間銀行の儲けを奪われたことになります。

——なるほど、それで独立戦争になつたのですか……。

ブラウン氏 そうです。実はこのような戦いは、現代でも行われています。

欧米の金融機関の特権を脅かすようなお金の仕組みが誕生すると、次から次へと攻撃の対象とされます。攻撃は経済制裁や投機的な通貨攻撃などから始まり、最後は戦争という手段が使われています。

——現在、世界を支配しているのはどのようなお金の仕組みですか？

ブラウン氏 中央銀行カルテル（独占企業連合）が推進する仕組みです。

——中央銀行カルテルとは？

ブラウン氏 世界の中央銀行の独占的な企業連合です。それらを束ねているのは、スイスに本拠地を置く国際決済銀行（BIS）です。ここで世界の金融政策が決められ、各国の中央銀行が実施しています。彼らがカルテルを作つて、金融の世界を支配しています。

——中央銀行は国家に必要なものではないですか？

ブラウン氏 もちろん必要ですし、便利な仕組みです。

——それでは何が問題でしょうか？

ブラウン氏 欧米諸国では貧富の差の拡大が問題になっていますね。現在の世界では六人の富豪が世界の人口の半分に匹敵する富を所有するという異常な格差が広がっています。（※注1）

その原因の一つが、この中央銀行カルテルです。また、世界中で中央銀行カルテルに属さない国家への攻撃が行われています。

——日本銀行も中央銀行カルテルの重要なメンバーですね。

ブラウン氏 そうですが、主導権を握

っているのは米国の中央銀行やヨーロッパ中央銀行です。

政府が所有しない中央銀行 の典型は米国FRB

——別のお金の仕組みを持つ国家を攻撃しているとのことですが、例を挙げてください。

ブラウン氏 たくさんあります。イラ

ンに経済制裁が行われていますが、イランは政府が中央銀行を所有しており、無利子の融資を行うなどの政策をとっています。反米的なベネズエラ政府も経済制裁を受けていますが、この国も

国家が中央銀行を所有しており、政府がお金を印刷しています。戦争を仕掛

けられたイラクも同じですし、シリアも攻撃の対象です。アフリカのリビアは優れた福祉国家だったのに、欧米に武力攻撃されて破壊されています。いずれも国家が中央銀行を所有しており、通貨を発行しています。

——政府が所有していない中央銀行があるのですか？

ブラウン氏 その典型は米国の中央銀行である連邦準備制度理事会（FRB）

です。ヨーロッパ中央銀行も各国政府から独立しています。

——FRBの仕組みを説明してください

い。

ブラウン氏 FRBの理事などを選ぶ

には上院による推薦と承認が必要なので、FRBは政府機関の一面を持っています。しかし、実際に金融政策を決めるのはFRBの配下にある連邦公開市場委員会（FOMC）です。この会議にはFRBの理事七名と、十二の連

邦銀行の頭取たち五人が議決権を持っています。ところがFRBを支える十二の連邦銀行は大銀行や国際金融機関が大株主で、米政府は株をまったく所有していません。十二の連邦銀行の株を持たない米政府は、FRBには

ほとんど影響力を持っていません。つまりFRBの実権は大銀行が握っており、独立性が極めて高いのです。

——トランプ大統領はFRBにもっと

利下げしろと、命令しているようにも見えますが……？

ブラウン氏 それは米国の景気が悪く

なった時に、「それ見たことか、俺が警告しただろう」と言いたいだけで、大統領にFRBをコントロールする権

力はありません。

——それは中立性が高いということでしょうか？

ブラウン氏 違います。FRBも連邦

公開市場委員会も、大銀行の利益のた

注1 Paul Buchheit "Morbidity Inequality".
<https://www.commondreams.org/views/2017/02/20/>



発で、歴史上、何度も制度が変わっています。

——世界の超大国で、ドルという基軸通貨をもつ米国の中央銀行が大銀行の支配下にあると、どのような弊害があるのでしょうか？

ブラウン氏 ひとはリーマンショックのような金融危機が定期的に発生することです。だいたい十年ごとに金融危機が発生しています。もうすぐリーマンショックを超える金融危機が発生するでしょう。

——中央銀行カルテルによる「強欲資本主義」が、抑えられないということですね？

ブラウン氏 その通りです。政府も中央銀行も国民のために存在するべきです。中央銀行が大銀行の支配下にあるのは、国民の利益が優先されません。

日本の国債は 国が買い戻している

——米国の大統領候補のバーニー・サンダース上院議員は「国民皆保険」や「国民皆雇用」などの政策を打ち出しています。また若手の下院議員アレクサンドラ・オカシオ・コルテス氏が、二十二名の議員と共に、議会に「グリーン・ニューディール政策」の議案を提

出しています。内容は公共銀行を設立するなどの方法で、国家が大胆に財政出動して社会保障や温暖化対策をするというものです。これらの政策をFRBが支えることができるでしょうか？

ブラウン氏 理論的には可能です。日本銀行のようにFRBが米国の負債の四〇%を買い取ってしまえばよいのです。日本の例を見ると、このレベルのお金を市場に放出するという量的緩和をしても、インフレは起きていません。

——日本は一千兆円という財政赤字を抱えて、財政再建を叫ぶ人が多いのですが？

ブラウン氏 日銀が国債の四〇%以上を購入しています。国が発行して日銀が買い戻したので、国が買い戻したことになります。例えば私に住宅ローンがあつたとして、それを買い取ってしまえば、借金を返したことになります。そこで日本の実際の財政赤字は四〇%以上も縮小されています。日銀は帳簿

の上で、債務を帳消しにするだけでよいのです。インフレも、目標の二%の半分にも達していないので、まだまだ財政出動をする余地があります。

——アレクサンドラ・オカシオ・コルテス下院議員が提出した「グリーン・ニューディール政策」を読むと、国や州

がつくる公共銀行のネットワークを使って、政策に必要な資金をつくと書かれています。エレンさんの主張が受け入れられているので驚きました。

ブラウン氏 そうです、最近の若い人たちは有能で、よく勉強しています。

——米国には公共銀行がノースダコタ州立銀行しかないそうですね。「グリーン・ニューディール政策」に公共銀行は使えますか？

ブラウン氏 一九三〇年代の大恐慌の後に、フランクリン・ルーズベルト大統領が活用した「復興金融公社」のようなものを設立する必要があります。

——「復興金融公社」はうまく機能したのでしょうか？

ブラウン氏 一九三〇年代の大恐慌の後、二十五年間活躍しましたが、その間に、米国の住宅や道路、橋、大学、農業、電力などの必要なプロジェクトに融資をして、国を再建させました。

さらに一九四〇年代になると第二次世界大戦を戦うために必要なさまざまなプロジェクトに融資を行い、大成功を収めています。当時は米国最大の会社で、世界最大の金融機関でした。最終的に「復興金融公社」は銀行の機能を使って大きな利益をあげています。

(以下、次号に続く)